

授業科目 発達障害作業療法評価学実習

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	作業
永井洋一		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【概要・一般目標：G10】 発達障害に対する作業療法評価を遂行するために必要な基礎知識と、検査・観察に関する基礎的な評価の技術を身につける。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 対象児とその家族に接するときの注意点を挙げる。 2. 問題点に注意しながら家族との面接を模擬的に実施できる。 3. 学生を対象に種々の発達検査を模擬的に実施できる。 4. 人形などを対象に、姿勢・運動の発達評価を模擬的に実施できる。 5. 学生などを対象に、微細運動の発達評価を模擬的に実施できる。 6. 学生などを対象に、心理社会的能力の発達評価を模擬的に実施できる。 7. 遊び・ADL・適応行動の評価を模擬的に実施できる。 8. 学生などを対象に、感覚統合能力の発達評価を模擬的に実施できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	子どもとその家族に接する方法と注意			1	講義
2	家族との面接（模擬実習）			2	演習・実技
3	姿勢・運動発達の評価（1）（ミラニ＝コンパレッティなど）			4	〃
4	姿勢・運動発達の評価（2）（人形による実習）			4	〃
5	姿勢・運動発達の評価：実技テスト			4	実技テスト
6	微細運動発達評価（書字動作・食事動作の分析）			5	分析レポート
7	発達全般の検査（1）（JDDST、遠城寺、KIDS）			3	演習・実技
8	発達全般の検査（2）（JDDST、遠城寺、KIDS）			3	演習・レポート
9	知覚・認知発達の検査（1）（フロスティッグ、DAM）			6	演習・実技
10	知覚・認知発達の検査（2）（フロスティッグ、DAM）			6	演習・レポート
11	心理・社会的発達の評価（1）（観察）			7	演習・実技
12	心理・社会的発達の評価（2）（観察）			7	演習・レポート
13	感覚統合の発達検査（1）（臨床観察）			8	演習・実技
14	感覚統合の発達検査（2）（臨床観察）			8	演習・レポート
15	Paper Patientによる評価内容の検討（グループ課題）			全	演習
【使用図書】		<書名>		<著者名>	<発行所> <発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		発達障害作業療法評価学と同じ			
参考書		発達障害作業療法評価学と同じ			
その他の資料		授業時に資料を配付する			
【評価方法】 出席：10% 授業態度：20% 実技テスト：30% レポート：40%			【履修上の留意点】 人間発達および小児科学の単位を取得していなければならない。 評価学の講義内容を実際に体験する科目であり、欠席は慎むこと。		